



【沢コレクション解題】 楊洲周延 「日本名女咄
春日局 竹千代」

メタデータ	言語: ja 出版者: 奥野 久美子 公開日: 2024-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菅原, 真弓 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002000258

【吉沢コレクション】解題

楊洲周延「日本名女咄 春日局 竹千代」

楊洲周延（一八三八—一九二二）は幕末から明治期に活躍した浮世絵師。幕末浮世絵最大の派閥であった歌川派の絵師・三代歌川豊国（一七八六—一八六五）入門し、豊国没後はその弟子である豊原国周（一八三五—一九〇〇）に教えを受けた。画名「周延」は国周の「周」を貰ったもの。一方、越後国高田藩に籍を持つ武士として戊辰戦争に参戦しており、浮世絵師としての活動は、慶応年間（一八六五—一六八）に錦絵作品などが知られるものの、概ね明治一〇年（一八七七）以降のこととなる。

明治の役者絵を代表する絵師である師・国周とは対照的に、たおやかな女性像を得意とした。代表作には新時代明治の「美人」を描きとめた「真美人」（大判錦絵三六枚揃、目録二図、明治三〇、三二年（一八九七、九八））や江戸時代には決して描かれることがなかった江戸城内をテーマにした「千代田之大奥」（大判錦絵三枚統揃物、一〇七枚、明治二七〜二九年）「千代田之御表」（同、一一五枚、明治三〇年）などが知られる。

「日本名女咄」は歴史上の賢女たちを取り上げた二枚続による錦絵シリーズで、他に「武田勝頼室北の方」「桂小五郎 芸者竹松」「木曾義仲の妾巴女」など一〇図以上が確認できる（刊行は明治二八年までと目される）。本図は徳川幕府三代将軍家光（幼名竹千代）を育てた春日局が選ばれ、弟君国松の部屋から侵入した猫をめぐる逸話が描かれている。

（菅原真弓）



大判錦絵二枚統揃物の内、明治二七年（一八九四）